

か殆んどすべての年齢層を通じて最高最低とも生産者世帯の方が高くなつており、特に60~64才では最高血圧で6 mmHg最低血圧で3 mmHg も高い。

なお、その他の世帯は、最高、最低とも大休生産、消費両世帯の中間の値を有している。

8. 食 材 料 費

ここでいう食材料費とは、摂取した全食品について購入、自家生産、貰い物等の別を問わず、すべて市場価格に換算して一人一日当りの平均を示したものである。

第41表

1人1日当り食材料費および比率

	額	金 額				構 成 比				対 前 年 比			
		全 国	生 産 者 世 帯	消 費 者 世 帯	そ の 他 の 世 帯	全 国	生 産 者 世 帯	消 費 者 世 帯	そ の 他 の 世 帯	全 国	生 産 者 世 帯	消 費 者 世 帯	そ の 他 の 世 帯
		円	円	円	円	%	%	%	%	%	%	%	%
総	額	105.64	93.71	115.87	90.46	100.0	100.0	100.0	100.0	+2.4	+1.0	+4.5	-0.9
穀	類	38.13	40.89	36.34	36.02	36.1	43.6	31.4	39.8	-1.9	-4.5	-0.7	+1.3
い	も	2.49	2.47	2.49	2.61	2.4	2.6	2.1	2.9	+0.8	-2.4	+2.5	+7.4
豆	類	5.49	5.27	5.74	4.64	5.2	5.6	5.0	5.1	-3.9	-4.2	-2.3	-15.5
魚	介	13.63	10.54	16.08	11.93	12.9	11.2	13.9	13.2	+1.1	+8.3	+0.3	-3.5
肉・卵・乳	類	13.90	7.27	19.29	8.81	13.2	7.8	16.6	9.7	+3.2	+9.5	+17.6	-7.7
野 菜	類	6.34	6.20	6.47	6.05	5.9	6.6	5.6	6.7	+0.6	+3.5	-0.6	+1.2
果 実	類	5.38	3.82	6.70	3.50	5.1	4.1	5.8	3.9	+3.7	-6.1	+11.5	-10.2
そ の 他		20.28	17.25	22.76	16.90	19.2	18.5	19.6	18.7	+8.4	+11.3	+7.9	+5.4

1) 全国1人1日当りの食材料費

全国1人1日当りの食費は105.64円(うち動物性食品の入手に要した費用は27.53円)で前年の103.12円を2.4%上回っている。なお、これを食品群別にみると、総額中に占める米類の比率は30.0%、小麦4.2%、大麦1.8%、穀類全体では36.1%となつており、穀類の比率は前年より1.6%低下している。

副食費では魚介類の占める割合が12.9%、獣鳥肉類6.6%、野菜類6.0%、豆類5.2%、果実類5.1%、卵類4.1%となつている。調味・嗜好品の占める割合は11.0%と前年を2.2%上回り、食生活の内容が年々豊かになつてきていることを示している。次に食品別にみて対前年比の増加したものは嗜好品の14.4%を初めとして乳類13.9%、卵類11.9%、獣鳥肉類10.2%、油脂4.9%等で高級な食品の増加率が目立っている。反対に減少したものは緑黄色野菜5.4%、豆類3.9%、穀類1.9%等である。

季節的にみると2月が最も高く108.56円、11月が最も低く、103.56円でその差は5.00円である。

2) 業態別1人1日当り食材料費

業態別にみると消費者世帯の食材料費が最も高く115.87円、生産者世帯93.71円、その他の世帯は90.46円である。

そのうち動物性食品に要した費用は消費者世帯35.37円、その他の世帯20.73円、生産者世帯17.79円で消費者世帯は生産者世帯に比べて総額において23.6%、動物性食品については98.8%と倍近くを要している。

このように生産者世帯では自家生産できる植物性食品が主体となつているため、購入を必要とする動物性食品等は相変わらず低く偏つた食生活を行つていることが、これからもうかがわれる。

(イ) 生産者世帯

生産者世帯の食材料費は93.71円で前年に比べて1%程度しか増加しておらず、全国平均からみて11.3%下回っている。これを食品群別に見ると相変わらず穀類の占める割合が大きく43.6%で前年より2.5%低くなっているが他の業態と比較して高い。一方動物性食品は18.9%と前年より1.2%増加したが消費者世帯の30.6%に比べると非常に低い。

対前年比をみると増加したものは肉・卵・乳類9.5%、魚介類8.3%で減少したものは果実類6.1%、穀類4.5%、豆類4.2%等となっている。

(ロ) 消費者世帯

消費者世帯の食材料費は115.87円(うち動物性食品に要した費用は35.37円)で業態中最も高く前年の110.93円を4.5%上回っており、他の業態に比べて増加率が非常に高い。これを生産者世帯と比べると総額において23.6%、動物性食品については98.8%多く生産者世帯との差はますます大きくなっている。な

第42表 1日1人当り食材料費および比率 (消費者世帯細分・33年5月)

	金 額				構 成 比				対 前 年 比			
	事業 経営 世帯	常用 勤労 世帯	日雇・ 家内 労働 世帯	その他 の消費 者世帯	事業 経営 世帯	常用 勤労 世帯	日雇・ 家内 労働 世帯	その他 の消費 者世帯	事業 経営 世帯	常用 勤労 世帯	日雇・ 家内 労働 世帯	その他 の消費 者世帯
	円	円	円	円	%	%	%	%	%	%	%	%
総 額	118.94	115.50	92.69	110.60	100.0	100.0	100.0	100.0	+2.8	+2.5	+3.9	+9.3
穀 類・いも類	40.44	37.10	39.86	37.68	34.0	32.1	43.0	34.1	+1.4	-2.6	-3.3	-2.0
魚 介 類	16.69	15.81	12.48	15.70	14.0	13.7	13.5	14.2	+2.5	+0.3	+4.2	+19.8
肉・卵・乳	18.19	19.59	10.31	17.08	15.2	17.0	11.1	15.4	+10.1	+12.7	+32.0	+36.7
野 菜 類	7.66	7.74	6.86	7.85	6.4	6.7	7.4	7.1	-22.2	+3.1	+23.2	+16.5
果 実 類	6.14	6.03	2.29	5.68	5.2	5.2	2.5	5.1	+16.5	+17.1	+1.8	+5.0
そ の 他	29.82	29.23	20.89	26.61	25.2	25.3	22.5	24.1	+7.1	+1.5	+2.5	+6.4

お消費者世帯の総額中に占める穀類の割合は31.4% (36.34円) で前年を2.6%下回っている。

その他では豆類、野菜類を除きいずれも前年より増加しており、肉・卵・乳類17.6%、果実類11.5%、調味嗜好品26.4%の増加が目立っている。次に5月調査における消費者世帯を細分した結果についてみると事業経営者世帯の食費は前年より2.8%増加して118.94円となり、他の世帯群中最も多く、また前年と比較して畜産食品、果実類が大きな伸びをみせている。常用勤労者世帯の食費は115.50円で前年より2.5%増加し、前年と比較して穀類、いも類が減少している以外はいずれも増加しやはり畜産食品と果実類の増加が目立っている。

日雇・家内労働者世帯の食費は92.69円で前年より3.9%増加し穀類、いも類を除くといずれも増加している。その他の消費者世帯の食費は110.60円で前年より9.3%増加し他の世帯群中増加率が最も高く常用勤労者世帯に近い食材料費の比率となっている。

(ハ) その他の世帯

その他の世帯の食費は90.46円で前年と殆んど変わらないが全国平均と比べると12.9%低くなっており前年に比べて穀類、いも類が増加している以外は豆類、魚介類、肉・卵・乳類、果実類等いずれも減少している。